



11・1闘争の総括

11・1闘争は、安房以降初めての全国的闘争として特筆されなければならない。

東京：東大ストによる千五百の動員、東大本部連署ストを先頭として三百、教育大三百、外語大スト、東大ストその他、都内主要大学が起ち上った。

三つのデモンストレーションが展開され文部省前庭にこみかき闘争が組織された。この過程で、10・31を境として、具体的に闘争の方向が明確になり、全国的な闘争の光景が現れ、ついに必然の結果として東大の敗北を中心として大管法闘争の初期にすぎず学生戦線内部から姿を小さくさせているのである。

関西：京大教養の全クラス学部の殆ど以上のスト決議をほしめ、理・経・教育のストで当日計台前集会を勝利し、千七百の動員、同志社の全学スト立命の全学ストと計三千のデモンストレーションを展開し、警察の無許可デモコースを暴力で粉砕し河原町デモを確保した。神戸：神大ストで三百のデモ静岡：文理スト、教育、午後授業放棄で八百のデモを展開した。

その他、北海道では北学大旭川東北大、九州大と各地で戦いが行なわれた。

第三段階への移行

五月の池田発言を契機に問題化した大管法に対する闘争は、ほぼ次のような段階に別れる。

第一段階 池田発言から10・15中教養部甲まで、この段階は、池田発言によって具体化したブルジョアジーの攻撃に対して、さまざまなヘゲモニーがそれらに置きかえられ、大管法を撤回したところである(国大協、学術会議、教授会等)。これに對し、断固としてブルジョアジーに對し反撃をいどむ闘争は関西における学生運動だけにとどまらず、全国的に展開されてきた。かかる集約が、ほぼ完全にブルジョアジーの意図に對し、

大学全体を権力に對決させ 大管法を葬むれ!

1の意図の貫徹としての中教養部甲である。第二段階 10・15・11・1、このブルジョアジーの意図の貫徹に對して断固たる政治闘争を組織することが必要であったが、教授層においては、国大協に自己を表現しようとしてほとんど運動は起らなかった。11・1闘争の意義はまさに全国的政治闘争として反撃したことにある。第三段階 だが、一たん政治闘争

問題が政治の次元へ引きこみ、大衆闘争を戦い抜くことである。16日の闘争は、かかるものとして、一方で11・30、12月国会冒頭の最大の戦いへむけての準備であるとともに、独自の意義をも有するのである。

大管法の狙うもの 大管法は、現情勢におけるブルジョアジーの政策として特殊な重要性を有している。一九五五年以降の日本資本主義の近代化投資による発展の中で、階級矛盾を反映したブルジョアジーの独自の政治的行動が大学を中心として行なわれ、労働運動の新高潮以後の敗北の過程で砂川闘争・平和擁護闘争・警職法として安房と巨大な役割をはたしてきたのであった。だから、大管法は、かかる過程・直接には安房のブルジョアジーの側からする総括として提出された。

このような攻撃をいかなるものとしていえるかは、さまざまに異なる。代々の諸君は、軍国主義復活に對する教育の反動化であるといひ、マルトの諸君は「全学連の破壊」とも「たゞの意図に對する」とも論議の中心となる「大学の自治」に對する、反政府的学問、思想、社会的発言、活動を、制度を通じて圧殺しようとしているものなのである。

都てく京大教養で戦われた。社學部に指導された自治会執行部の方針によつて運動がダイナミックな発展を遂げた。莫大な活動家がクラスに生まれ、クラスが一個の闘争体へと成長した。この点については、東京の運動はダイナミックスを知らない闘争であった。さらに11・1闘争が一応の成功を収めたといへ、この闘争の中で戦いの展望が明らかにならず、11・16への取組みとその後の展望が明らかにならなかつた。

戦いの方向 11・1闘争は最も典型的には京大とく京大教養で戦われた。社學部に指導された自治会執行部の方針によつて運動がダイナミックな発展を遂げた。莫大な活動家がクラスに生まれ、クラスが一個の闘争体へと成長した。この点については、東京の運動はダイナミックスを知らない闘争であった。さらに11・1闘争が一応の成功を収めたといへ、この闘争の中で戦いの展望が明らかにならず、11・16への取組みとその後の展望が明らかにならなかつた。



米の軍事封鎖とソ連の対応

大管法をあくまで粉砕するといふ立場から諸戦術が提起されなければならなかつた。その立場からしてのみ、戦いの経緯の蓄積は、大衆の中にこの闘争の意図が明らかにならなかつた。

米の軍事封鎖の背景・意図 キューバは、資本主義の搾取と収奪のくびきからのがれて解放を勝ちとらうと奮闘する中、米帝国主義の足並みもろろす。フラスコは、キューバへのアメリカの干渉反対の態度をますますと出

大管法闘争の展望 先に述べたように、11・1闘争によつて政治化した問題は再び15・16日の国大協に向けて取組みの場へ中心が移りつつあり、われわれは断乎として11・16を再び闘争の場とする。

米の軍事封鎖の背景・意図 キューバは、資本主義の搾取と収奪のくびきからのがれて解放を勝ちとらうと奮闘する中、米帝国主義の足並みもろろす。フラスコは、キューバへのアメリカの干渉反対の態度をますますと出

大管法闘争の展望 先に述べたように、11・1闘争によつて政治化した問題は再び15・16日の国大協に向けて取組みの場へ中心が移りつつあり、われわれは断乎として11・16を再び闘争の場とする。

米の軍事封鎖の背景・意図 キューバは、資本主義の搾取と収奪のくびきからのがれて解放を勝ちとらうと奮闘する中、米帝国主義の足並みもろろす。フラスコは、キューバへのアメリカの干渉反対の態度をますますと出

大管法闘争の展望 先に述べたように、11・1闘争によつて政治化した問題は再び15・16日の国大協に向けて取組みの場へ中心が移りつつあり、われわれは断乎として11・16を再び闘争の場とする。

米の軍事封鎖の背景・意図 キューバは、資本主義の搾取と収奪のくびきからのがれて解放を勝ちとらうと奮闘する中、米帝国主義の足並みもろろす。フラスコは、キューバへのアメリカの干渉反対の態度をますますと出

大管法闘争の展望 先に述べたように、11・1闘争によつて政治化した問題は再び15・16日の国大協に向けて取組みの場へ中心が移りつつあり、われわれは断乎として11・16を再び闘争の場とする。

米の軍事封鎖の背景・意図 キューバは、資本主義の搾取と収奪のくびきからのがれて解放を勝ちとらうと奮闘する中、米帝国主義の足並みもろろす。フラスコは、キューバへのアメリカの干渉反対の態度をますますと出

大管法闘争の展望 先に述べたように、11・1闘争によつて政治化した問題は再び15・16日の国大協に向けて取組みの場へ中心が移りつつあり、われわれは断乎として11・16を再び闘争の場とする。

米の軍事封鎖の背景・意図 キューバは、資本主義の搾取と収奪のくびきからのがれて解放を勝ちとらうと奮闘する中、米帝国主義の足並みもろろす。フラスコは、キューバへのアメリカの干渉反対の態度をますますと出

大管法粉碎! 憲法改悪の陰謀粉碎! 炭労7万人首切り反対! 社会主義学生同盟

キューバをねらう米国のソ連の醜悪愚劣な「取引」

不侵の保障や、トルコ基地の撤去(百歩歩ずつ)、キューバ領土内にある米のグアンタナモ基地の撤去(まだしも)を要求した。ソ連はキューバを守る道なのである。アメリカの軍事封鎖に對して、船舶を引き返させるのではなく、中南米、米の労働者人民をはじめとする全世界の労働者人民の軍事封鎖反對闘争が、アメリカを打倒する全世界の労働者人民の要求として、封鎖解除を余儀なくするまで待たせなければならぬ。労働者人民は、また、かかる闘争を通じて自己の階級的団結と統一を深めていくのである。

ソ連の醜悪愚劣な「取引」 米の軍事封鎖の背景・意図 キューバは、資本主義の搾取と収奪のくびきからのがれて解放を勝ちとらうと奮闘する中、米帝国主義の足並みもろろす。フラスコは、キューバへのアメリカの干渉反対の態度をますますと出

編集言

11・1において、四河原町への道を閉ざそうとした官憲の意図は、圧倒的な大衆動員とその強力な意志統一の前についで、東京の諸君組織を防御せよ、あらゆる大衆組織と運動の強化を要する。そして同盟員および読者の期待にそつたためにはおとなしくはいえ、さやかながらもわれわれの憲法闘争へのアプロイチを考へた。(安達)